

審査の結果の要旨

氏名 馬場 絢子

親子介護には立場の逆転といった介護以前からの相互関係と不可分な側面がある。中でも高い親密性を有する母娘介護においては、介護以前からの距離感をふまえた理解が必要である。そこで本論文では、成人期前期までを中心に展開されてきた母娘研究の知見と介護開始以降を扱ってきた介護研究の知見とを結びつけ、介護以前からの母娘関係が介護においてどのように表れるのか明らかにすることを目的とした。論文は、問題背景や文献レビューをふまえて本論文の目的・構成を示した第1部、母娘介護の特徴について巨視的に明らかにした第2部、母娘介護者の主観的体験を多角的に描き出した第3部、介護以前からの親子関係が介護の様態に与える影響について母娘介護の特徴に注目して検討した第4部、介護者の子ども視点を導入し家族における介護の意味を考察した第5部、総合的な考察を行った第6部から構成された。

第1部では、高齢者を介護する家族がおかれている状況について整理した上で、介護者と要介護者との関係を扱った先行研究をレビューし、上記の目的・構成を示した。

第2部では、異なる2地点の介護保険給付データおよび施設待機者向けアンケートデータの集計・量的分析を行い（研究1, $n=259$; 研究2, $n=83$ ）、母娘介護者が介護から離れがたい状況にあること、質的な理解が必要であることなどを確認した。

第3部では、母娘介護者へのインタビューデータ（ $n=15$ ）から、娘が介護者となり介護を継続していくプロセスを複線径路等至性アプローチにて記述し（主介護者のみ $n=12$, 研究3）、さらに老いゆく母親の介護を意味づけていくプロセスとそのパターン（研究4）や認知的介護態度の構造および行動様式や感情との関連（研究5）をグラウンデッドセオリーを用いて示した。これらにより母娘介護体験について多面的に理解することができた。

第4部では、親子介護者を対象に web 調査を行い（ $n=534$ ）、まず因子分析により実親介護受容尺度・実親介護態度尺度を作成した（研究6）。これを用いて、介護以前からの親子関係における精神的自立が介護受容や介護態度と関連し、これらが介護負担と関連し、さらに介護負担が介護者の心理的 well-being と関連する仮説モデルをパス解析（母娘介護者とその他の親子介護者に分けた多母集団同時分析）により検証したところ、部分的に支持され、母娘介護の特徴も見出された（研究7）。長期的な親子関係によって介護の受けとめや取り組み方が異なる可能性について考察した。

第5部では、まず第3部のデータを KJ 法により予備的に分析し、介護者から子どもへの思いを整理した。さらに介護者の子どもの語り（ $n=4$ ）を M-GTA により分析し、要介護者や家族・生活の変化および間接的な介護を経験しながら、介護を自分ごととして理解していく様子を記述した（研究8）。これにより家族における介護の意味を立体的に理解できた。

第6部では、総合考察として研究8までの知見を整理した上で、介護が元々の家族のあり方を強める一方、親イメージの崩壊をもたらしうるイベントであることを示し、肯定的・否定的影響について議論した。これらをふまえ、心理学的介護者支援モデルを提示した。

本論文は、介護を介護以前からの親子関係の延長線上におき家族における意味・機能を示した点、特に母娘介護における困難状況やリスク要因を指摘した点、これらをふまえ家族関係上の困難や葛藤に踏み込んだ心理学的支援を提示した点で意義が認められた。よって、本論文は博士（教育学）の学位を授与するにふさわしい水準にあるものと判断された。